

## 「第4次あいづわかまつ地産地消推進プラン（案）」 パブリックコメントの結果

### 1 意見募集期間

令和4年1月24日（月）から令和4年2月22日（火）まで

### 2 周知方法

市政だより、市のホームページによる広報  
市政情報コーナー、各支所、各市民センター、生涯学習総合センターでの閲覧

### 3 意見提出者数及び提出方法

1名（農政課持参による）

### 4 意見件数

11件

### 5 意見の要旨及び市の考え方

No.	項目	案に対する意見	意見に対する市の考え方
1	プラン全般にか かるご意見	食生活の多様化とは分析 しているのか。実例を示 せ。	現代の情報化社会、国際交流が進んだことで、 米を主食とした和食の文化から、パンや麺を主 食とした食の欧米化が進み、その結果、農産物 の需要が変化してきたものと考えております。
2	プラン全般にか かるご意見	農林業体験数の定義は。	ご指摘のとおり、農林業体験交流人口数は農業 体験数と林業体験数の合算となります。より分 かり易いものとなるよう表現を改めます。
3	プラン全般にか かるご意見	地産地消推進の施策の考 え方は市民の健康を守 り、生産者の収入確保や 人間づくりに欠かせない 基礎体力・精神の増進が 必要不可欠である。とっ てつけたようなSDGsな ど2030年までにできる 事なのか。	SDGsは農業分野も含めた世界共通の目標である ため、持続可能な開発に結び付くよう、食と農 の教育（質の高い教育）や健康的な栄養素（飢 餓をゼロに）、生産と消費（つくる責任、つか う責任）など、目標を意識しながら推進してま いります。
4	プラン全般にか かるご意見	SDGsも良いが、行政は スーパーシティ構想に基 づく生活様式を考えてい るなら、市場と日本の現 状を勉強すべき。	
5	消費者と食・農 とのつながりの 深化促進にかか るご意見	会津若松市民と住民が料 理を楽しめる政策が必 要。そもそも会津は農業 が基幹産業である。若者 の米離れ、コロナ禍での 生活で食文化が伝わって いない。若年層に電子レ ンジや即席食品でないも のを伝えていく必要がある。	食や農に興味をもってもらうよう、料理教室の 開催や農業体験、素材の魅力発信などを通し て、食と農のつながりを深めてまいります。
6	消費者と食・農 とのつながりの 深化促進にかか るご意見	農薬、土壌づくり、農機 具の改良・使用に関する 補助事業、農業研究所に よる指導が必要。	基本方針2「安全・安心な地元産農産物の安定供 給」の中で、環境に配慮した生産、ICTを活用 した農産物の生産性向上と省力化を主な取組とし て掲げており、ご指摘いただいたことへの補助金等 を通じた支援を行ってまいります。
7	安全・安心な地 元産農産物の安 定供給にかか るご提案	ウナギやイワナといった 水産業養殖事業を推進す べき。	本市は地理的条件により水産物資源が少ないと ころであります。ご指摘につきましては、生産技術 の確立や販売先の確保、多額の経費が見込まれる 施設整備など、整理すべき課題が多いことから、 その有効性について研究してまいります。

**「第4次あいづわかまつ地産地消推進プラン（案）」  
パブリックコメントの結果**

8	地元産農産物の消費拡大にかか るご意見	会津の市民・住民のため に美味しいと言われるもの を提供しなければ売れ ない。	本市産農産物が市内外で魅力ある農産物として認 知され、消費拡大に結びつくよう、魅力の情報発 信やブランド化など、複合的に推進してまいりま す。
9	地元産農産物の消費拡大にかか るご意見	北海道物産展の評判が良 いのはなぜか。	
10	地元産農産物の消費拡大にかか るご意見	インバウンドについて は、各国のお客様が喜ぶ 味の料理の提供が重要。 仏都会津というなら精進 料理を提供すべき。新潟 県・富山県の新鮮な魚類 を市場は提供し、街に専 門店が多くあると良い。	
11	その他 プラン にかか るご意見	消費者というのは間違っ ていないが、対象者は地 元住民であり市民である のに、なぜ消費経済で捉 えた用語を使うのか。地 産地消生産物が人間の口 に入るということは健康 をテーマにした栄養エネ ルギーの補給であり、健 康を維持していく基とな る基本条件なのだから。 オリンピック選手を出す ためにもりっぱな体を育 てる為に子供に栄養を与 えること。学校教育の食 育授業が必要。農業体験 6年生に農業クラブとし て休耕地でサツマイモ、 ジャガイモ、キュウリ、 ナス、トウモロコシ、カ ボチャ等を作り収穫し東 京のスーパーで体験させ る。	プランの策定にあたって、家庭や学校での農業体 験を通した食育の推進が重要である旨、市民の皆 さまからご意見をいただいております。第4次プ ランでは、そういった機会を多く創出してまいり ます。